語り合い、思考を深める道徳指導の工夫

ー自分の言葉で表現する活動の充実を通してー

道徳班　吉田美保　（中学校教諭）

生徒の実態

- 自分の思いや考えを語り合えない　（自分の考えを持てないから）
- 自分の考えを発言するのが恥ずかしい　（自分の考えに自信が持てないから）
- 自分の考えを短い言葉で発言する　（なぜそう考えるのか深く考えていないから）

手立て1　小集団での話合い活動

- 絵本資料活用
- 4人が基本のグループ、全員の顔が見える座席
- 司会者のキーワード、考え発表カードの活用

手立て2　自分の考えを書く活動

- 中心発問と終末で書く
- 考えの変容がわかるワークシート欄の活用
- 考えの比較ができる付箋紙（考え・理由）の活用

手立て1
登場人物が葛藤する絵本資料を活用した
話合い

手立て2
中心発問で考えを
書く

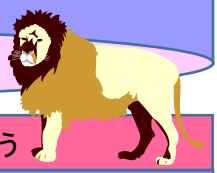
手立て1
4人が基本の座席
司会者が鍵を握る
話合い

手立て2
終末で深めた考えを
書く

絵本資料　・・・　文章量が適切　視覚からの理解　⇨　内容理解しやすい　考えを持ちやすい

実践1　「風切る翼」【講談社】　3ー（3）
一人苦しむクルルのもとに行くことができず葛藤するツルのカララ

実践2　「ヤクーバとライオン」【講談社】　3ー（3）
傷ついたライオンを仕留めて、立派な戦士になるか葛藤する主人公のヤクーバ

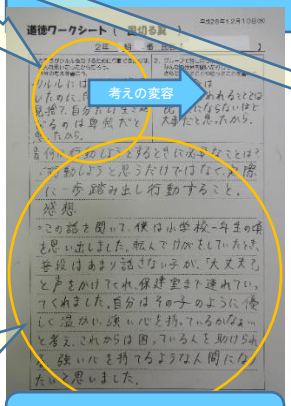


あえて生徒の環境とかけ離れた状況の資料を用いることで生徒が話したくなり、
話しているうちに自然と自分のことと重ね合わせて考えられるようにしたい

話合いの時間の充実のために、書く活動は中心発問と終末で行う

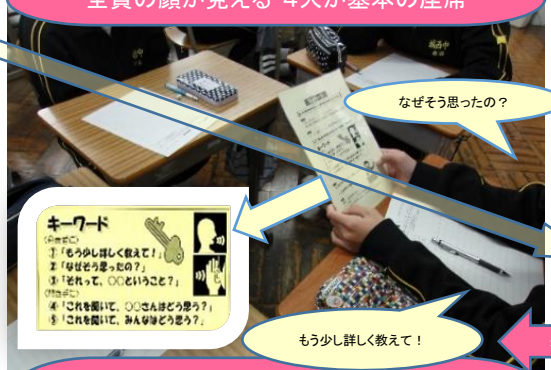
実践1　「風切る翼」【講談社】　3ー（3）
カララがクルルを助けるために行動できたのは、どんな思いだったからだろうか。

実践2　「ヤクーバとライオン」【講談社】　3ー（3）
ライオンを殺さずに帰ったヤクーバは、その後どんな気持ちで過ごしただろうか。また、なぜそのような気持ちになったのだろうか。

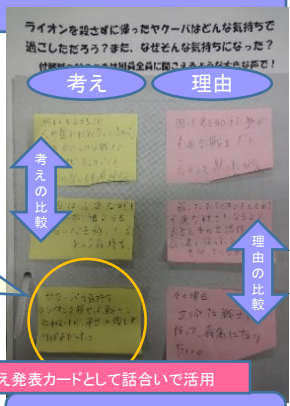


考えの変容がわかるワークシート

全員の顔が見える 4人が基本の座席



司会者のキーワードが話合いの鍵



考え発表カードとして話合いで活用

考えの比較ができる付箋紙と台紙

自らの心情・判断を表現し、他者の心情・判断に耳を傾ける語り合いを話合い活動で行い、
終末で感想としてまとめることで考えを深めさせたい

語り合い、思考を深め合う生徒

○絵本は文章量が適切で視覚からの理解ができ、内容理解しやすいため、生徒全員が考えを持つことができた。
○司会者のキーワード活用や他者との考えの比較ができる考え発表カード活用で話合いが活性化した。そのため、一方的に自分の考えを述べて終わっていた生徒が友達の発言に反応を示すようになるなど、自分の言葉で考えを伝えようとする生徒が多くなった。
○考えの変容や考えの比較が話合い活動でできたため、考えが深められたと感じる感想が多くなった。

●考えをさらに深めさせるためには、全体での考えの共有場面で生徒の反応に対して言葉を補ったり、切り返したりするなどの、補助発問のタイミングや生徒の考えの引き出し方を身に付ける必要がある。
●発言の内容やワークシートの記入状況から思考の変化を把握するなど、生徒が思考を深めたかどうかを見取るための方法を考える必要がある。